ゆずりはの森から

第145号
2015年4月1日発行

NPO法人
ゆずりは学園

小学生
中学生
高校生
大学生
社会人

今月のSHOT

3月5日　第10回 ゆずりは学園卒業式

27名 社会への巣立ち

（中京テレビで放映されました）

最後の学校だし、大切な居場所

2人の卒業生から、メッセージが届きました。

「最後の学校だし、大事な居場所だよ。ゆずりはがあったから、生きていられるし、幸せって思えることもいっぱいあったよ。今もゆずりはがあるから頑張れる」

「7年前、母に連れられ、初めてママさんとパパさんに出会った。中学に行く意味が分からず、髪を染め、ピアスを付け、派手な格好をし、いつも豊橋駅をぶらぶらしてた。学校へ行こうと髪を黒く染め直しても、1度色素の髪はどうしても真っ黒にはなってくれず、学校の先生には帰れと言われた。そんな時、パパさんとママさんに会って、私自身を認めてくれてなんだか、照れくさいような、嬉しいようなそんな気分になった。中学3年生で内申0の私はゆずりは学園の生徒になった。

いつも豊橋駅でうだうだべってただけの私は、逆方向の田原駅に向かい、ぐるりんバスに乗って、山や海を見ながら、学校へ向かうのが好きだった。ゆずりは学園は私には正しく生きる事を教えてくれた上、もっと人間らしい、自然の温かみ、自然の大切さを教えてくれた。そんな大切な場所に行く唯一の手段が「渥美線」と「ぐるりんバス」だった。バイトの給料だけでも気軽に行ける。今もゆずりは学園には、たくさんの事情をかかえ、子供ながらに、その悪夢とも言える現実と戦っている子供達がたくさん通っています。どうかその子達に救いの手を差し伸べ続けてほしい、ぐるりんバスが100円から580円に値上げしなければいけない現状なのは良く解りますが、大人の行動1つで、たくさんの子供達が学校に行けなくなる。ゆずりは学園はただの学校ではありません。

そこに行く誰もが「最後の学校」と思い、最後のチャンスなのです。そのチャンスを奪わないでください。ぐるりんバスを値上げするということは、子供達から学園を奪う事でもあるという事を、もう一度大人の人が考え、決断してほしい。子供達のために、田原市の大人の方達が心優しい愛の手を差し伸べてくれる事を祈っております。」

子供達の居場所です。大切に継続したいです。

あの日のことに

突然の震災、3月11日に向かい合う日々でした。この4年間、一体何が出来たのかと記録を見ました。福島、宮城などに品物を送ったり、訪問したり、時には福島の子供たちをゆずりは学園に泊めたり。

2011年に18回、2012年に36回、2013年に12回、2014年に18回、そして今年2回、毎月東北支援をして来ました。この土曜日、日曜日には4回目の東北支援を渥美半島全域で行います。田原のめっくんハウスで行います。日曜日が雨らしいので、出来たら土曜日が安心出来るかなと思いますが、天気だけは予想がつきません。そして明日は保護者の方から、キャベツをいただけるとのことで、朝からスタッフと生徒たちが行動します。同時に中京テレビの取材が入る予定です。

ぐるりんバスが突然100円から580円に値上げとなる報告は、豊橋駅まで他の鉄道を乗り継いでくる子供たち、生徒たちにとっては、「田原駅からゆずりは学園まで1時間40分かかっても、歩くしかない」、「毎回来たいけど、学園に来る回数を減らすしかない」などと言う意見が出ています。

国や県、市の何処かで子供たちを守って欲しいけど、どこも守ってくれないなら、ゆずりは学園のパパとママとスタッフで子供達を守るしかありません。

2月24日の田原市からのFAXは、田原駅からの直行便は廃止、運賃約6倍は人災です。

東日本大震災　NPO法人 ゆずりは学園
5年目に入る震災支援

2015［活動報告］

1/ 6●ミニトマト　福島仮設住宅
2/24●ふわふわソックス　福島仮設住宅
3/15●

【支援物資】◎キャベツ 530ケース　◎ブロッコリー 60ケース
◎その他野菜・果物 90ケース　◎お米 650kg
【支 援 金】162,859円（運送・宅配代に使わせていただきます）
【支 援 先】①福島県福島市　蓬莱仮設住宅
他仮設住宅（約1,100世帯）
②福島県南相馬市　牛越仮設住宅（約350世帯）
③福島県南相馬市
北町保育所・よつば保育園・聖愛保育園・八沢幼稚園
④宮城県石巻市相野谷　飯野川校仮設住宅（約70世帯）
⑤宮城県石巻市雄勝町　立浜仮設住宅（約20世帯）

東日新聞3月17日付

田原産野菜など10トン以上被災地へ
4年目の支援に感謝

田原しみん震災支援ネット

田原市の市民団体、田原しみん震災支援ネット（加藤信雄代表）のメンバーらが14、15両日、道の駅田原めっくんはうす（田原市東赤石）で田原産の野菜などを募った。集まった10トン以上の物資は、トラックで東日本大震災の被災地へ届けられた。

支援活動は今年で4回目。今回、集まったのは、米460キロ、キャベツ530箱をはじめ、ブロッコリーやミカン、ニンジンなど。一部は宅配便で送った。支援金が16万5000円集まり、運賃や箱代に充てた。

トラックは15日夜に田原市を出発。16日には福島県福島市や宮城県石巻市の仮設住宅などについたという。

沓名智彦副会長は「4年目でも忘れずに支援してくれて、ありがたい」と感謝の気持ちを表した。（深田いづみ）

田原産の野菜や米を乗せて被災地へ向かうトラック（田原しみん震災支援ネット提供）

青年、シニア 海外ボランティアとの交流会』の記事

国際貢献の意義やあり方模索
幅広い年代がJICA理解

13人が青年海外協力隊体験談

田原でセミナー開催

専門知識や技術を生かして開発途上国を支援する青年海外協力隊（JICA）について理解を深めるセミナー「協力隊ナビ田原」（青年海外協力隊愛知県OB会主催）が21日、田原市野田町のゆずりは学園で開かれた。県内に住む幅広い世代が参加し、国際貢献のあり方について考えた。

国際貢献と支援について考えた「協力隊ナビ田原」＝ゆずりは学園で

セミナーでは、コロンビアやブラジル、エクアドル、ドミニカなどで働いた13人が、それぞれの使命と体験談を交えながら協力隊への参加感や学んだことなどを振り返った。

豊橋市内の中学校で外国籍生徒の通学指導などを担当する女性教諭（47）は、「路上生活の子どもも多く、貧しさから抜け出せない現状に問題意識を持つようになった。外国籍の子どもたちはアイデンティティーや自分の国籍探しにもがいている。JICAは国によって異なる国際感覚をもんだ。子どもたちに共感しながら、これからの仕事につなげたいと、青年ボランティアに携わる意義を語った。（千葉敬也）

東愛知新聞3月22日付

お問い合せ・連絡先
ゆずりは学園事務局
〒441-3421 田原市田原町池の原15-3
TEL:0531(22)3515　FAX:0531(22)7761
e-mail:kutsuna_ike@yahoo.co.jp
http://www.yuzuriha-gakuen.com/
http://ameblo.jp/yuzurihaschool/
http://ameblo.jp/kutsuna-diary/

お知らせ
自閉症・アスペルガー等の「発達障害」の子を持つ親の会
ゆずりはの会（160回）
○日時／4月10日(金) PM1:30～3:00
○場所／ゆずりは学園
（毎月第2金曜日 5/8・6/12・7/10）

NPO法人 ゆずりは学園
会員希望者
募集!!
●賛助会員
年会費2,000円
●正 会 員
年会費5,000円
●寄付／自由
三菱東京UFJ銀行
（普）田原支店
□座名義／ゆずりは学園
理事　沓名智彦
□座番号／3627714
お便りを郵送します。
お名前・ご住所をご連絡下さい。